

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人東大和ごみレスくらぶ

代表者・役職名 氏名 理事長 尾崎美佐子



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

里山における竹林の整備ならびに竹間伐材の生ごみ処理への再利用と利用方法の開発

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1998年(平成10年)1月~3月にかけて、東大和市中央公民館の市民企画講座「ごみとダイオキシン」が、5回連続で開催されました。この連続講座終了後、内容を冊子にまとめようと参加者に呼びかけ、編集をしていく過程で、「東大和ごみレスくらぶ」が誕生しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

竹林を有する里山の保全とその間伐材の再利用を有効な事業として里山保全事業並びに可燃ごみの減量事業に成長させ、里山の保全と生息する野生動物たちとの共存、及び資源を有効活用する循環型社会の構築を目的とします

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

東大和市の北側に位置する里山において、里山の所有者もしくは市所有地の場合には市役所の許可を得て(地権者並びに市役所共に承諾済み)、自然に繁殖・増殖していく孟宗竹を伐採、間伐を行い、里山の保全を行うと共に、伐採された孟宗竹は、根本から2/3程度の部分に関しては粉状に粉碎し竹パウダーに加工し、先端の1/3並びに枝葉の部分に関してはチップパーによりチップ化して竹チップとする。これにより里山の保全を行うと共に伐採した孟宗竹を可燃ごみとして焼却処分することを防ぎ、可燃ごみの減量を測ると共に、製造された竹パウダーを生ごみ処理の為にコンポストの発酵材料として使用することによって、生ごみ排出量も低減させることをもくろむ。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- 里山より間引き・伐採された孟宗竹の量 年間 369本
- 間伐された孟宗竹から加工された竹パウダーの量 10.0t 5000リットル
- 間伐された孟宗竹から加工された竹チップの量 3.5t 1,500リットル
- 竹酢液を使用した野生動物の忌避剤の開発には至らなかった。
- 竹を利用した発酵食品の開発として、筍を使用した志那竹の試作を実施した。
- 竹パウダー製造機の駆動部、加工部のオーバーホールを実施。購入当時の生産性を回復した。
- 里山の野生動物調査として、トレイルカメラの設置により野生動物の撮影に成功し、野生動物の動線について一定の確認を実施することが可能となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

・里山の整備については、その出口である整備後に発生する可燃ごみの問題と、市内の可燃ごみ減量対策との兼ね合いの解決との問題が課題となっていたが、整備後に発生する竹の間伐材については、市内の障害者就労支援を実施する団体との協働活動により生ごみの回収事業とつなげ、生ごみ減量と竹間伐材の利用、並びに当該事業によって発生する竹パウダーたい肥の受け入れ先の有機農業を営む農家をつなげることができる可能性を見出すことができた。来期からは当該事業の検証試験に取れかかる所存である。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし